

小学校外国語活動における CLILの実践

山野 有紀 (Yuki Yamano)

上智大学大学院博士課程前期 (TESOL) 2年

小学校英語活動講師

<yuki-in-tesol@sophia.ac.jp>

小学校外国語活動でのCLILの実践

対象者 ・ 小学校5年生 35名

指導者 ・ 日本人英語活動講師、外国人英語講師
(クラス担任の先生)

実施時期 ・ 2011年6月第1週～第3週
(英語ノート 1.Lesson 1 終了後)

授業内容・統合教科

第一回目 = 「好きな動物を作ろう -Colors & Animals-」
(図画工作)

第二回目 = 「クラス動物園を作ろう -Animals' habitats-」
(理科・図画工作)

第三回目 = 「野生動物たちが直面している問題を考えよう
-Problems of wild animals-」 (社会)

CLIL class - 第一回目

Content(内容) < 図画工作 >

好きな色で好きな動物を紙粘土で作る。

Communication(言語)

学習の言語 = colors & animals(色と動物)

学習のための言語 = “(What color do you want?)”

“Red and white, please.”

“(What’s this?)”“(What are you making?)”

“(It’s a)turtle.” etc.

学習を通しての言語 = 未習の色や動物の名前

Cognition(思考) 色の配色を英語であらわす。

Community(協学) 教師と生徒との対話。

第一回目CLIL class 感想

- * <担任の先生の感想>
- * CLILをやった子どもたちに今までにない充実感と喜びが生まれた。
- * (評価を考えなくてよい自由な創作活動 → 他の教科でも機会がない。)
- * (ゲーム・ロールプレイ → 出来ない子に不安感。)
- * ほしい色の粘土を英語で言わなければならない⇒英語を話す必要感
- * 授業が終わってからも残る作り上げた動物⇒目に見える達成感
- * 自然に共学が生まれた。(終わった子が他の子の手伝い。)
- * 「英語でやりとげた。」「心から英語が楽しかった。」が残った。

第一回目CLIL class 感想

<こどもたち・授業の感想>

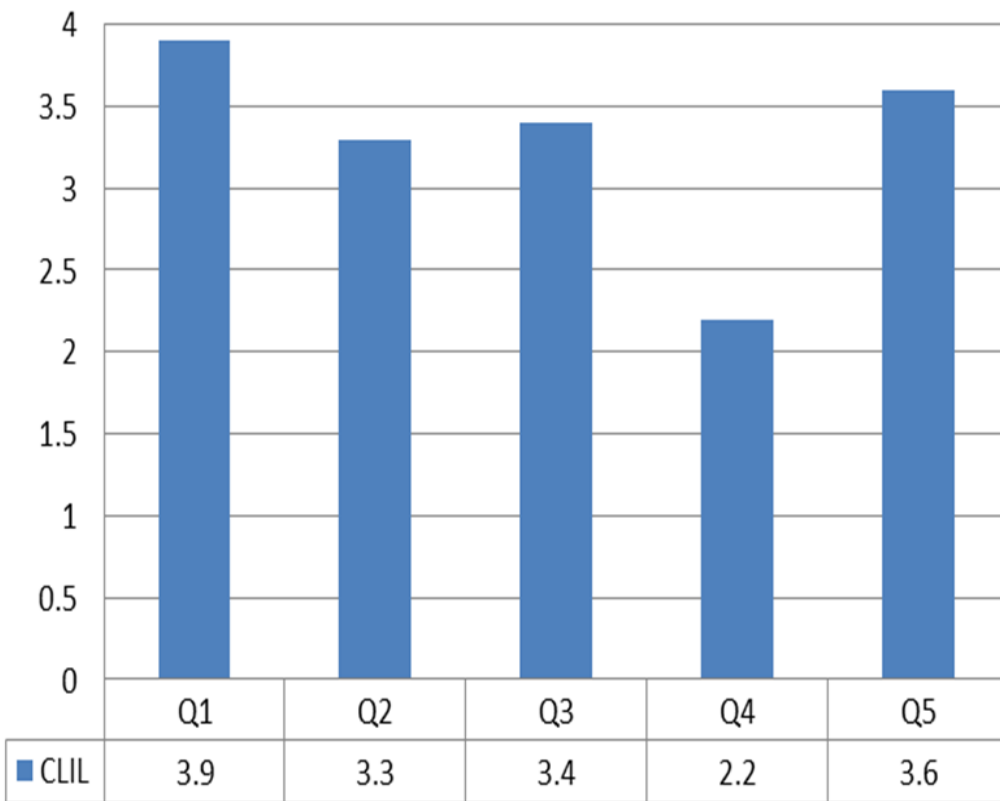
- * ねん土はむずかしかったけど、楽しかったです！
- * 英語で話して好きな色のねん土で動物をつくれた。
- * 動物がボロボロになったけど、完成できてうれしかった！
- * 英語がむずかしかった。でもすごくおもしろかった。
- * 今までで一番楽しかった。
- * 来週の英語が楽しみ。

<授業でやったことで覚えていること>

- ☆ アニマルを作った。 ☆ カラー・アニマル・グッド
- ☆ モンキー・ブラウン ☆ カラーとアニマルをえいごで言った。
- ☆ タートー ☆ 来週は作った動物で、「ズー」！

第一回目 結果

第一回目 CLIL class



Q1. 授業は楽しかったですか？

Q2. 英語(言葉)が分かりましたか？

Q3. 内容(何について英語で習ったか)が分かりましたか？

Q4. 難しかったですか？

Q5. やりがいがありましたか？

(4=I agree,
3=I partially agree,
2=I partially disagree,
1= I disagree)

第二回目 CLIL class

- * Content(内容) <理科と図画工作>
- * 動物を生息地ごとに分類してクラス動物園を作る。
- * Communication(言語)
- * 学習の言語 = habitats & nature things(生息地と自然物)
- * 学習のための言語 = “(What animals live in the ocean?)”
“Turtles.”
- * “(What’s this?)” “(What are you making?)”
- * “(It’s a)tree.” “(It’s a) river.” etc.
- * 学習と通しての言語 = 未習の色や自然物の名前等
- * Cognition(思考) 生息地や自然物を英語であらわす。
- * Community(協学) 生徒同士の協同学習。
- * 教師と生徒たちとの対話。

第二回目CLIL class 感想

<担任の先生の感想>

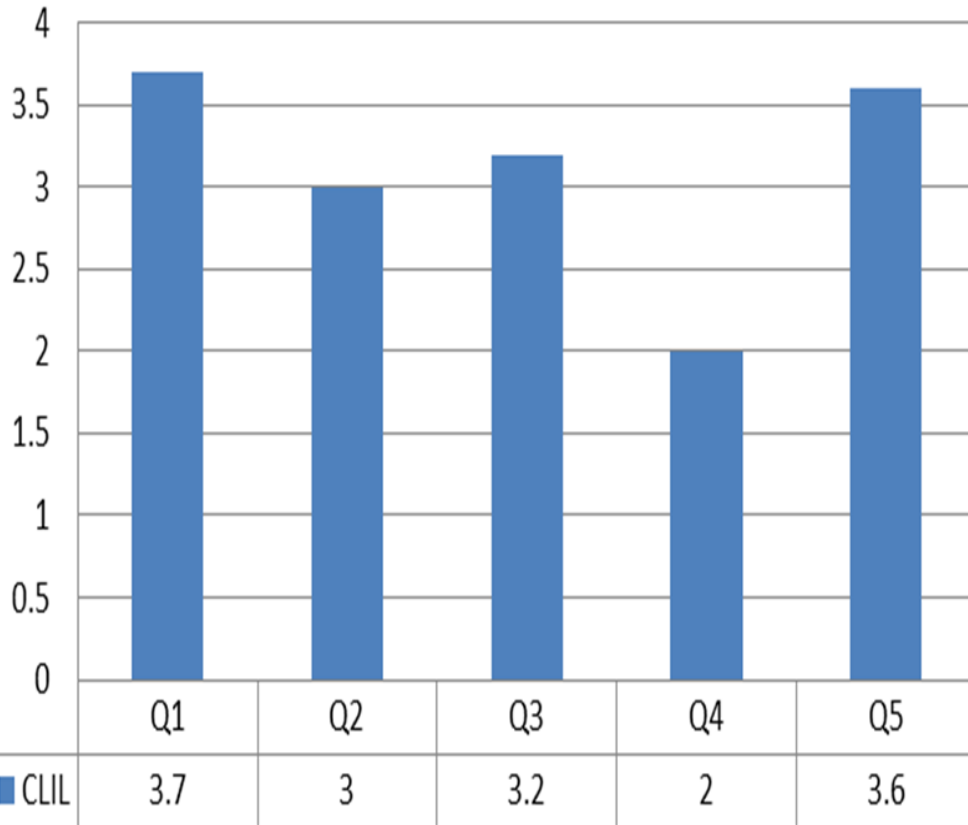
- * CLILの授業をこどもたちが心待ちにしていた。
- * 英語が楽しい⇒他教科に比べてこどもたちの参加度が高い。
- * 普段は難しいとあきらめてしまう生徒が、CLILの授業の中で一生懸命理解しよう、聞こうとしている。
- * 単語がこどもたちにとって全く新しい未知なものであるため、理解させるのに時間が必要なのではないかと思ったが、難しい単語でも、紙粘土で作って実体験することにより、英語がイメージを持ってこどもたちの中でふくらんでいた。

第二回目 CLIL class 感想

- * <こどもたち・授業の感想>
- * みんなと動物園作りがとても楽しかったです。
- * 楽しかったけど、海と流氷を作るのはたいへんでした。
- * 動物のすむ場所の英語がむずかしかったけど、動物園を上手に作れてうれしかった。
- * 新しい英語を知れて良かった。
- * やったこと全部おもしろかった。
- * <授業でやったことで覚えていること>
- * ☆アニマルのいばしょを作った。 ☆パンダ・リーフ・トゥリー
- * ☆フォレスト・シー・オーシャン・サバンナ
- * ☆みんなでクラスズーを作った。

第二回目 結果

第二回目CLIL class



* Q1. 授業は楽しかったですか？

* Q2. 英語(言葉)が分かりましたか？

* Q3. 内容(何について英語で習ったか)が分かりましたか？

* Q4. 難しかったですか？

* Q5. やりがいがありましたか？

(4=I agree,
3=I partially agree,
2=I partially disagree,
1=I disagree)

CLIL class 第三回目

- * Content(内容) <社会>
- * 野生動物たちが直面している問題を理解し、解決策を考える。
- * Communication(言語)
- * 学習の言語 = Clean, dirty, eat, die etc.
- * 学習のための言語 = “(What’s this?)”
- * “(It is a) clean ocean.”
- * “(It is a) dirty ocean.”
- * “Turtles like to eat jellyfish.”
- * 学習を通しての言語 = “Don’t throw dirty things!”
- * Cognition(思考) 野生動物の問題を英語で理解し考える。
- * Community(協学) 教師と生徒の対話。クラスでの話し合い。
- * 地球に住む一員として動物を救うために何ができるか。

CLIL class 第三回目の問題点

- * 環境問題は6年生の三学期で学ぶ内容。それを5年生の一学期に、英語で学ぶことは難しすぎるのではないか？
(内容・言語の難しさ)
- * 図画工作との統合により、楽しく実体験しながら理解できた第一回・第二回の課題と違い、第三回目の課題は動物を救うためのメッセージを英語で送るという非常に難しいものとなる。
(課題の難しさ)



せっかくこどもたちが抱いた英語とCLILの授業への楽しさが、内容・言語・課題の難しさから英語への分からない感・苦手感に変わってしまう危険性があるのではないか？

第三回目CLIL class 感想

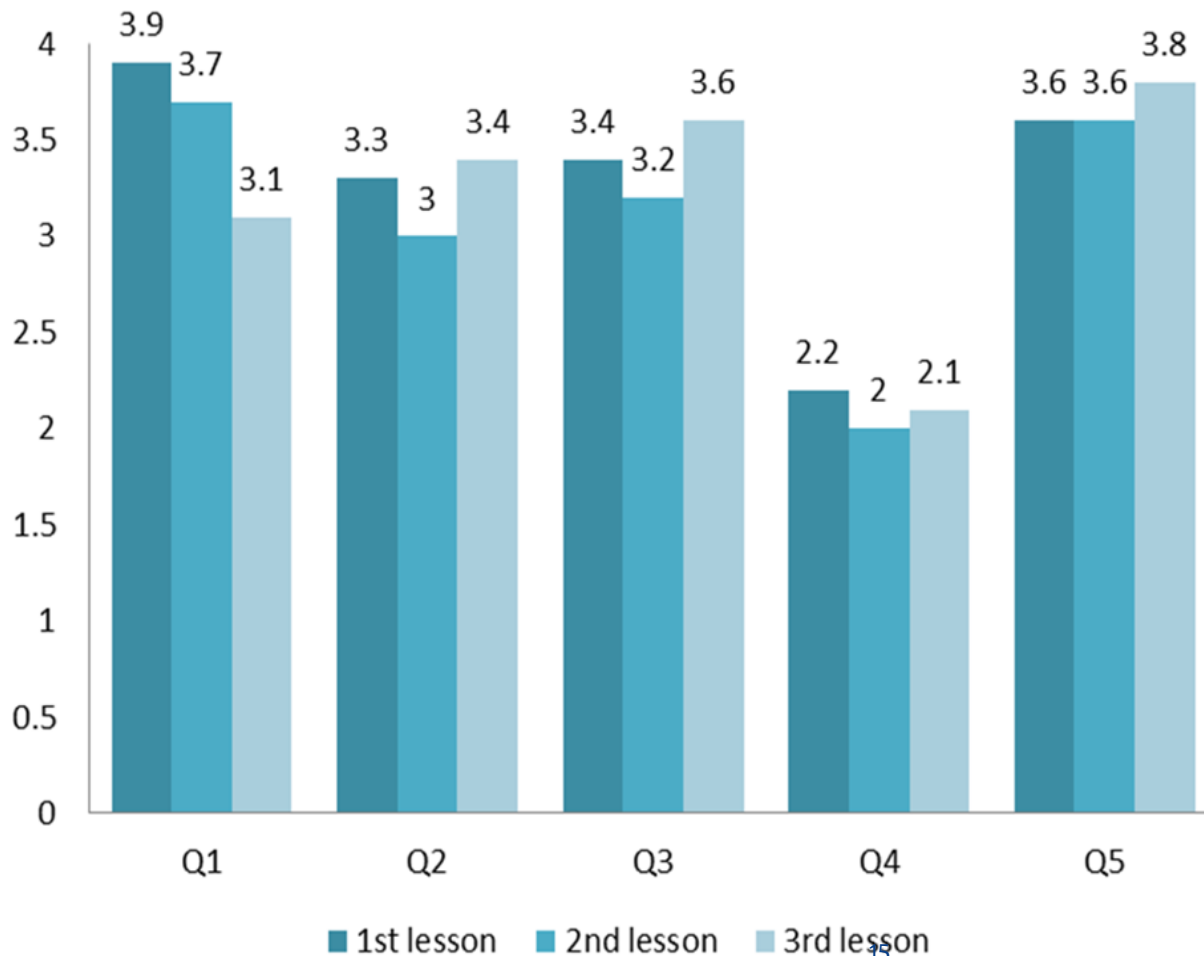
- * <担任の先生の感想>
- * 動物の環境問題について英語でのやり取りが続く中、こどもたちの集中力がとぎれることは無かった。
- * 英語でのスキットを全員が食い入るように見つめていた。
- * 内容を理解したこどもたちの心が大きく動いたのを感じた。
- * 英語は、世界に向けて自分の意見を発信するために必要なものなのだと気づき、全員が動物を救うためのアイデアを英語で書くことを最後まで頑張れた。
- * CLILの授業を通し、こどもたちの持つ可能性の大きさにあらためて気づき、教師として考えさせられた。

第三回目CLIL class 感想

- * <こどもたちの感想・授業で覚えていること>
- * 今日は手紙を書いている時、悲しくなりました。
- * 今日は楽しかったというより動物たちがかわいそうでした。
- * 今日は先生たちがいろいろひっしにおしえてくれた。WWFの人たちに英語で手紙をかいた。すごくやりがいがあった。
- * 悲しかった。海をよごさないでほしい。
- * 動物がこんなにくるしんでいると知れてよかった。
- * 木や海がどんどんきたなくなっていくところが一番覚えている。
- * アニマルたちのことがほんとうにかわいそうだとおもった。
- * インドの子どもたちがリーフズをふやしてうれしかったです。

CLIL class アンケート結果

CLIL class 全3回結果



Q1. 授業は楽しかったですか？

Q2. 英語(言葉)が分かりましたか？

Q3. 内容(何について英語で習ったか)が分かりましたか？

Q4. 難しかったですか？

Q5. やりがいがありましたか？

(4=I agree,
3=I partially agree,
2=I partially disagree,
1=I disagree)

外国語活動にてCLILを実践して

- * CLILの授業を通して、こどもたちはさまざまな内容を外国語で学ぶことができた。授業中にわきあがる感情も外国語で体験できた。(言語学習環境の自然さ)
- * 外国語を伝達的手段として使うことに対する必然性を感じることができた。(学習言語の必然性)
- * 授業の中で、こどもたちに外国語学習に対する不安感がなく、非常に積極的な授業態度がみられた。
- * 内容の持つ真性(authenticity)がこどもたちの心に訴えかける力強さ。→大人の予想の範疇をはるかにこえる、こどもたちの大きな力と可能性。

外国語活動にてCLILを実践して

- * (難しかった点・難しいと思われる点)
- * 予算の問題・学校の理解
- * CLILのレスンプラン・教材作成が不可欠。
(授業の内容、コミュニケーション、思考活動、協学をどのような形で行うか。またチームティーチングの場合、パートナーにそれらを理解してもらい、ともに実施するためにミーティングが必要。)
- * 内容によっては、学習者の現在のレベルより高い語彙や文がでてくる場合がある。その際に、いかに理解可能なインプットを与えられるか。
- * 学習した内容と言語を生かした豊かなアウトプット活動の機会をどのようにして与えるか。

References

- * Coyle, D., P. Hood & D. Marsh (2010). *CLIL: Content and language integrated learning*. Cambridge: Cambridge University Press
- * Mehisto, P., D. Marsh & M. Frigols (2008). *Uncovering CLIL: Content and Language Integrated Learning in Bilingual and Multilingual Education*. Oxford: Macmillan.
- * 文部科学省 (2009) 『英語ノート1』文部科学省
- * 吉田研作、町田淳子、坂本ひとみ (2010) 『your world』サクソンコートパブリッシング
- * 渡部良典、池田真、和泉伸一 (2011) 『CLIL -内容言語統合型学習- 上智大学外国語教育の新たなる挑戦』上智大学出版